昭和九年度所屬組合の仕向先割當數量基定基準數量表を示すと次の如し。

仕向地方 ＼ 組合	名古屋陶磁器輸出組合	神戸陶磁器輸出	東日本陶磁器輸出	大阪陶磁器輸出	大日本陶磁器輸出聯合會
北米	一四八、五七四噸	一六、三一三噸	四、三三一噸	三三六噸	一六九、五五四噸
英印	三、九五〇	一七、三三九	一九七	一一、四三一	四一、九一七
南洋	五三、八九〇	一四、六八五	一二九	一三、〇三六	八〇、七四〇
歐洲	一四、七一七	三、九四八	二、八三一	一〇五	四〇、七三一
濠洲	一八、一三三	一三、三四三	一、九九四	三三五	三一、七九三
滿洲支那	三三、〇〇五	二、六六八	二九	六、九一一	三三、六一三
阿弗利加	一三、二四九	九、〇三四	四一	八〇六	三三、五三〇
中南米	四、四九七	一、三九一	四三	三	六、三三一
近東埃及	一、八七一	六四九	六一	二六	二、六〇七
合計	三〇〇、九〇五	八七、二九九	一〇、四〇五	三一、一〇七	四三〇、八一六

割當は名古屋陶磁器輸出組合が七割、神戸同組合が二割、殘り一割が大阪及東日本同組合となつてゐて、仕向先は北米が四割を占め第一位に、南洋の一割一分、英印、歐洲の約一割の順位である。新規割當に於ては米國の五十噸に對し、蘭印の三十噸他は何れも二十噸以下であり、超過可能數量は新規割當の二倍で合計輸出可能數量は新規割當の三倍で米國の百五十噸蘭印の九十噸他の國は六十噸以下である。（未完）

新著紹介

○大日本讀史地圖

富山房發行　芦田伊人修補　特價五圓五十錢

富山房には吉田東伍博士の本圖帖があつた、昭和六年吉田博士に學ばれた芦田氏がその增補を快諾されて數年遂に八十有二版の本圖帖が完成した、この內舊圖を存する僅に十八面他は悉く新作でなくんば大に修訂を加へられたものである。

日本古地圖四種いづれも面白いのをコロタイプにした外に各時代の讀史圖ができた、第一圖の魏使來航道程推定圖は、耶馬臺を、筑前山門郡に置いてあるが、これでは魏書の道里に一致しないと思ふが、其他の圖版いづれも校訂緻密、我等はこれによつて讀史上發明する所の多いのを喜び、著者多年の蘊蓄を傾けられた努力に絕大の贊辭を呈したい、印刷も體裁も美はしい、近來の地圖界への寄與であることを信じ江湖に

之をすゝめる。（藤田）

○朝鮮の聚落後篇

朝鮮總督府　昭和十年三月三十日

朝鮮總督府の生活狀態調査の其八として囑託善生永助氏の調査研究にかゝる聚落編の後篇が出た。これは久しく待望のものである丈けに善生氏の精進勇猛に自から畏敬の念を生ずる、本篇は同族部落の調査であつて、同本同姓のものが一部落又は一地方に集團住居せるものゝ狀態であるが、善生氏の云はれるやうに世界に稀に存在するものであらう、蓋し東洋文化の發展した農耕民族が黄河、揚子江の大平原に移住開墾をはじめた有史以前から、多くのこれらの民族から派生した新民は或は北に或は西に或は東に移動したが、その移動の最初から既に家族的であつた、それがある地を占據定住するや、いよ〳〵深く土に親み、同族相より相助けて、子孫の長養を計つた、こゝに所謂東洋儒教や道教の根柢が發生した、本書はさうした太古からの民族移動と定住との關係を明に指示する、第一、姓氏の變遷と同族部落　第二、名族興廢と同族部落　第三、歸化氏族の同姓部落　第四、同族部落の分布、第五、同族部落と儒教勢力及び地方に於ける儒林、兩班儒生の分布　第六、特色ある同族部落、結論から成立し、菊版九九四頁の本文と數百の寫眞版を附加した尨大な報告となつた、善生氏の努力もさることながら印刷製版の方々も勉めたものだといはざるを得ない。

いづれにしても姓氏を重んずることは東洋人倫道德の基調である、我等はかうした研究が日本の內地に於ても試みられる日の來たらんことを祈らざるを得ない。（藤田）

雜報

○里昂に於ける本邦生絲

一九三四年に於ては前年に引きつゞき日本生絲は顯著なる進出をなし、リオンに於て其第一位を占めた。從來支那絲や伊太利絲を使用してゐた機業家は、本邦生絲を以て代用することの可能なるを究め漸次其使用を馴致した結果ではあるが、幸に本年好況であつた織物に適合する生絲であつたから、價格の低廉と相待つて歐洲生絲と支那生絲を壓倒することが出來た。

	一九三二年	一九三三年	一九三四年
日本	四八五、六三瓩	六〇二、四二五	一、六三、五九九
伊國	五四八、八七七	六〇七、〇五四	二二八、三五四
支那	四三三、三九九	七〇五、四〇七	二六〇、四九二
廣東	二二三、六七一	二八一、九〇八	二八九、四五二

この表に見るやうに一九三四年には非常な躍進であるが、この結果伊太利生絲に影響を及し一時輸入制限の聲もきこえた位であつたが九月以後環境好轉して今日に及んだ、米國向の日本生絲は主として絹靴下製作といふ單純な方面の需用で